



誉め誉め月間

松の実恒例の誉め誉め月間になりました。誉め誉めの準備は整っており、おこなひましょう。

昨年四月に進級し、新しいお友達を迎えて以来、一年になろうとしています。

保護者皆様のおかげで、後と賞讃をあげながら、子どもたちは心も体も成長という階段を確かな足取りで登って来られました。

三月はこの一年の総まとめとして「ほめる」とを続ける参ります。

「人は誰でも自分自身のことを価値ある存在だと思いたい」

「人は誰でも他人からも自分のことを価値ある存在だと思いたい」と願っている」

つまり、人間は生まれながらにして自分を認めてもらい、自分の存在価値を確かめた、という欲求をもっているのです。

これを「自己重要感」とも言います。

が、幼少の頃から誉めることを多くして、育ちこんでいきたい大切な感情です。

しかし、残念なことに欠点は目につくや、おのれに長所は見えないもので、おのれから誉めるためにはたまたま子どもに関心を払い、長所と同時に子どもが今、何を感じているのかを察し出す熱意が求められます。

子どもが今ここで感じていること、喜んだり満足したり、やり遂げたという達成感をしっかりと受け止めてあげる。

それが誉めることになっていくのです。子どもの中に、わきよる「やれたぞ」という、漠然とした形での喜びをしっかりと受け止め、そのことにより、子どもは実感のある喜びのあるものとして、喜びや達成感、満足感、生き生きと感ずることができるようになります。満足感、自信、自己価値を自らが認める自信になり、自信がやる気と意欲へと発展していくのです。

「満足感と自信と意欲」という心の育ちの法則制に添って、三月も又ほめてほめて満足感を深め味わわせ、自信を高め意欲と勇気とを育ませ、立たせてあげたいと思っております。

保護者みなさま

どうぞお子たちのこの一年の成長のゆと高さと重きを誉めてあげてください。そして、生まれ変わったおのれから、昨日と今日と変えてお子たちから受けた喜びと驚きと感動を、後のシブワに注いで来られたご自身を、ご自身を誉めていただきたいのです。

「誉め誉め月間」は、子どもたちにもご家族みなさまのためにもあります。

年度の終りに、この一年、誉め誉め年間だったと思っていたことが、できれば、子どもたちは自信を持って、次のステップへと翔いこくれることとてしよう。

園長 福田孝子